

令和3年度第2学期始業式式辞

校長 澤山 陽一

いよいよ2学期の始まりです。皆さん一人一人の努力により、夏休み中に大きな事故もなく2学期を迎えることができ、校長として本当にうれしく思っています。

2学期は、3年生にとっては進路を決定する大切な学期であり、1・2年生にとっては、部活や学習について計画を立て、努力を積み上げていく時期になります。また、2学期には運動会や農業祭などの学校行事や、他校の先生方が本校にいられて研修を行う学校訪問も予定されています。このような機会は、皆さん方のさまざまな能力が大きく伸びる、またとないチャンスです。どの行事にも、ぜひ自身のスキルアップを意識して臨むように心掛けてください。

さて、一学期の終業式で、私は皆さんに「運が良くなるのも悪くなるのも自分しだい」と伝え、「一日一日を無駄に過ごすことなく、『自分は運がいい』と意識しながら、全員が充実した夏休みを送ってください。」とお話ししました。夏休みを振り返ってみて、いかがでしたか。何か運のいいことはありましたか。

私について言うなら、ヒマワリ畑で満開のヒマワリを見られたことが、この夏休みで一番運が良かったことでした。大洲市の河川敷に咲くヒマワリなのですが、今までなかなか満開の時期に見ることができなかつたのです。沈む夕日を背に、透き通ったようにキラキラと輝くヒマワリの花びら、数万本のヒマワリが一斉に私の方を向いてくれたような一瞬は、本当に感動的でした。

みなさんの中には、ヒマワリの花は、日の出には東を向き、そこから太陽を追いかけてその首を西に向かって動かすというイメージを持っている人が多いと

思います。しかし、ヒマワリが太陽を追いかけて動くのは、花を咲かせる前の時期だけであり、花が咲く頃には動かなくなるのです。ヒマワリは茎を成長させるため、太陽を追いかけます。太陽の方を向くことにより、たくさんの光エネルギーを得てしっかり光合成をおこない、栄養分をより多く蓄え大きく育つことができますのです。それを何回も繰り返すことで、ヒマワリはより大きく育っていきます。

そして、最終的にヒマワリの花は東を向いて花を咲かせ、太陽を追いかけることを止めるのですが、この東を向いて咲くことにも大きな意味があります。東を向いているために、早朝から太陽の光を十分に浴びたヒマワリの花は表面の温度が高くなるので、そこに夜のうちに下がってしまった体温を上げるために、昆虫たちが集まってくるのです。このように昆虫が多く集まることにより受粉が頻繁に行われ、ヒマワリは子孫を増やす機会に恵まれることになります。

私は、生徒の皆さんにもこのヒマワリのように、成長期である今は素直な気持ちで知識や技術を身に付けるために、あらゆる方向、あらゆる分野に興味を持ち、最終的に自分の方向を定めたら、しっかりそこでエネルギーを蓄えてほしいと思っています。そして、最終的には、多くの人に幸せや喜びを与え、たくさんの人から感謝され、自分自身も幸せになれるような人生を送ってほしいと願っています。満開のヒマワリ畑を眺めながら、この夏、私はそんなことを考えていました。

では、これから始まる、2学期も、私がいつも言っているように、自分の命は自分で守ること、常に「笑顔と感謝」の気持ちを持つこと、人の話にしっかり耳を傾け生活することを、よろしく願います。